



TOYAMA
UNIVERSITY
HOSPITAL

富山大学附属病院だより

信 頼

特集

「総合がんセンター」開設

新型コロナウイルス感染症 最前線！

子どもと新型コロナウイルス感染症

新任教授の抱負

食と健康「味覚(味の感じ方)について」

読むくすり箱「外来がん化学療法の質向上のための総合的な取り組み！」

認定看護師のご紹介

連携病院のご案内「医療法人財団恵仁会 藤木病院」

季節のご挨拶

「ここがすごい！富山大学附属病院の先端医療」出版

かわら版

TOYAMA UNIVERSITY HOSPITAL

Vol.

141

2020年11月発行



「総合がんセンター」開設

大学附属病院にがんセンターを作る意義

現在、日本では死因の1/3ががんで、生涯に2人に1人はがんに罹患するといわれています。まさに「がんは国民病」といっても過言ではありません。しからば、国民医療を先頭に立って引っ張る必要のある大学病院ではがん診療をさらに発展させる義務があるのではないかと思います。最近のがん診療はある特定科単独で進めるにはあまりにも多岐にわたっています。従来はある臓器に発生するがんを臓器別診療科が単独で診療を行い、それで完結することが多かったと思います。しかし、昨今のがん診療にはチーム医療が欠かせません。外科で切除可能な状態であっても、術前化学療法（ネオアジュバント療法）や、放射線療法を組み合わせる（集学的治療）などは日常的に行われています。また、がん薬物療法も以前の細胞障害性抗がん剤に加えて、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が登場し、飛躍的な治療成績を上げるようになりました。このように、1人のがん患者さんに対して多くの部署のスタッフが関わる必要が生じています。そこで、病院を上げて1人、1人のがん患者さんに対応することを目的として、「総合がんセンター」という新たな組織づくりが必要となりました。

総合がんセンターとはどんなところ？

さて、今回立ち上げられた「総合がんセンター」が富山大学附属病院にできたことにより、具体的に何が変わったので

総合がんセンター長
(臨床腫瘍部 教授)

林 龍二



しょう。一言でいうと「病院一丸となったがん診療！」ということになるのですが、ちょっと見えづらいですね。なるべくわかりやすく説明するために、総合がんセンター内にできる様々なセンターの一部をご紹介します。

小児・AYA世代・妊孕性センター

富山県ではあまり進んでいなかった「小児・AYA世代」のがん診療や「若年がん患者さんの妊孕性の問題」に対応するために「小児・AYA世代・妊孕性センター」を新たに設置しました。AYAとはadolescence and young adult（思春期・若い世代の成人）のことで一般的には15-39歳くらいの方を指します。がんという病気は比較的高齢者に多いのですが、小児や若い世代の方でも一定数いらっしゃいます。こうした年代では学業・就労・就職・結婚・出産といった人生のイベントが目白押しで、そこに大きな病気を抱えることになってしまいます。そうした患者さんの支えになるセンターです。妊孕性（妊娠のしやすさ）に関しては富山県などの自治体とも協力をして、がん治療と妊孕性をできる限り両立できるよう工夫をしていきます。

肉腫・希少がんセンター

癌という言葉は例えば胃癌や肺癌のように体の中で上皮と呼ばれる場所から発生するものを指します。一方、筋肉や血管の細胞は間葉系細胞といって上皮とは区別されています。この間葉系細胞から発生する悪性腫瘍を肉腫といいます。骨も間葉系細胞からなり骨肉腫が発生します。その他筋肉や血管から発生する珍しい悪性腫瘍を軟部肉腫と総称します。これらの腫瘍は希少がん（人口10万人当たり6人以下の発症）と呼ばれ、多くの疾患では標準治療が確立していません。また、疾患が少ないがゆえにそうした疾患を診療する医師も少ないのが現状です。「肉腫・希少がんセンター」では、こうしたどうしてよいかわからない患者さんに対して、現行で

最善の治療をお届けできるよう尽力いたします。

その他にも特定診療として計14、患者サポート部門として4、診療支援部門として5、さらに先端医療・研究部門として3つのセンターが設置されています。詳しくは病院ホームページをご覧ください。

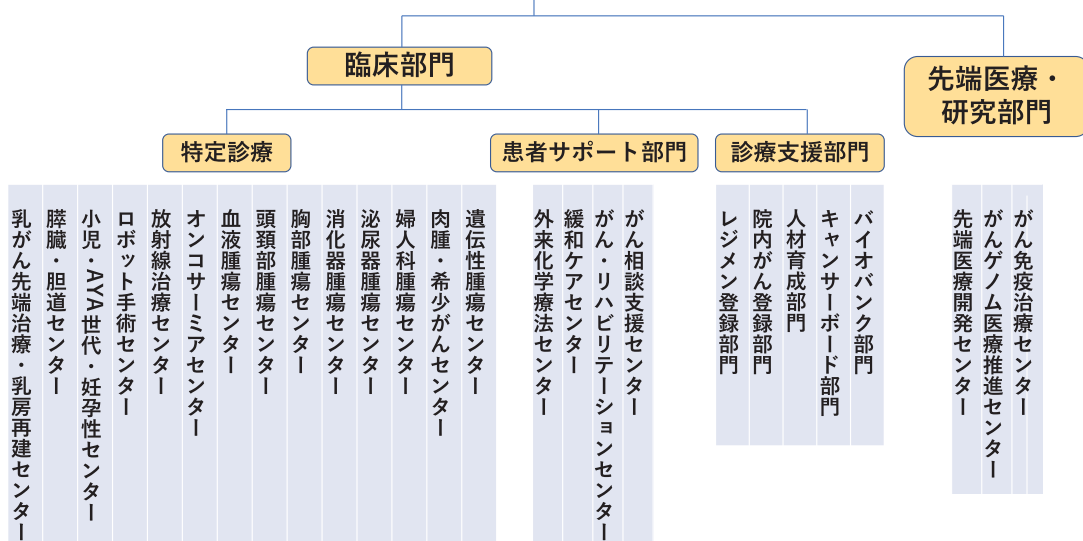
最後になりますが、何よりも県民の方々が地元富山の病院で高度先進的ながん診療を受けられるよう、また、安心のできる心の通った診療が受けられるよう、職員一同、一丸となってセンターの運営にあたっておりますことをお伝えしたいと思います。



富山大学附属病院 総合がんセンター

<http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/oncology/index.html>

富山大学附属病院・総合がんセンター



新型コロナウイルス感染症 最前線！

冬の時期には、発熱する病気が増えてきます。風邪をはじめとして、インフルエンザ、肺炎、そして新型コロナウイルス感染症など様々あります。これらの病気を確実に診断するためには、どうしても検査が必要になります。その検査を行うためには、医療機関を受診する必要があります。多くの患者さんが一気に医療機関に押し掛けると、機能がパンクしてしまいます。そこで、あらかじめ予防できる病気は、みんなですべて予防していく必要があります。今年は特に、早めにインフルエンザワクチンを接種しましょう。また65歳以上の方で、肺炎球菌ワクチンを一度も接種していない方は、肺炎球菌ワクチンも是非受けてください。

さて、それでは新型コロナウイルス感染症を正しく理解するために、インフルエンザと比較しながら説明していきます(図1)。毎年流行するインフルエンザですが、体の中にウイルスが入ってから症状が出るまでの期間(潜伏期間)は1-3日とされています。そして、他人に感染させてしまう期間は発症前日から発症後5-6日程度で、そのピークは発症後2-3日とされています。皆さんは、通常、症状が出始めてインフルエンザにかかったかなと思った時点から、周囲の人にうつさないような対策をされていると思います。その時点では、感染力のピークにはなっていないのですが、それでも他人に感染させてしまうことがありますよね。新型コロナウイルス感染症の場合は、もっと他人に感染させてしまう可能性があるのです。新型コロナウイルス



総合感染症センター長
(感染症科 教授)
山本 善裕

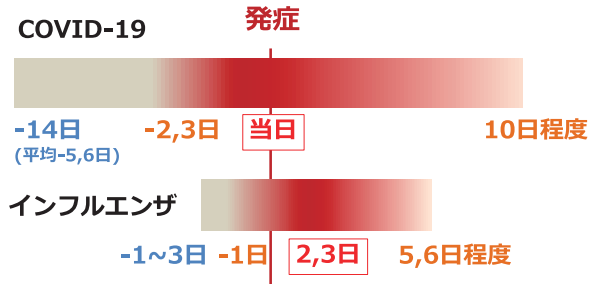
ス感染症の潜伏期間は1-14日と長く、平均は5-6日とされています。他人に感染させてしまう期間は発症2-3日前から発症後10日程度で、そのピークは発症当日とされています。つまり症状が出た時点で、既に感染力のピークになっているということです。体調がおかしいなと思った時点で、既に他人に感染させてしまっている可能性があるのです。従って常に、自分が感染しているかもしれないという意識が必要なのです。

次に治療の話ですが、第一波の時には手探りの状況で、途中からやっとファビピラビル(商品名:アビガン)が使用できるようになりました。第二波では、さらにレムデシビル(商品名:ベクルリー)、デキサメタゾン(ステロイド薬)、ヘパリン(抗凝固薬)が使えるようになりました。治療薬の選択肢が増え、幅広い治療が出来るようになってきました。しかし治療しやすくなったからと言って、安心はできません。まだ特効薬といえるほどの抗ウイルス薬やワクチンは開発できていないのです。

そのため、やはり日頃からの感染対策が最も重要です。自分が感染しているかもしれないという意識を持ちながら引き続き、こまめな手洗いを継続して、マスク着用を

習慣にして、マスクを外す場合には1m以内に他人を近づけないようにしてください。もし、近づく場合には間仕切りを利用してください。新型コロナウイルス感染症対策分科会より、感染リスクが高まる5つの場面(図2)が提示されております。感染リスクを下げながら会食を楽しむためには、①少人数・短時間で、②なるべく普段一緒にいる人と、③深酒・はしご酒などはひかえ、適度な酒量でお願いします。また、箸やコップ類などは使い回さずに、一人ひとりで利用してください。もちろん、体調の悪い人は参加しないでください。よろしくお祈りします！

潜伏期間/感染力のある期間とピーク



Y. Yamamoto

(図1) 新型コロナウイルスとインフルエンザの比較

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で注意力が低下する。また、聴覚が鈍感し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用は感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、例えば深夜のはしご酒では、昼間の通常の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- また大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、屋外バーベキューでの事例が確認されている。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用施設での事例が確認されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での事例が確認されている。車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



(図2) 感染リスクが高まる「5つの場面」

子どもと新型コロナウイルス感染症

私は小児救急を専門としていることから、当初より新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対応しておりましたが、情報不足などから少なからず不安はありました。しかし、各国の保健省が公開するデータや対応を解析し、「子どもたちにおけるCOVID-19は感染しづらく、拡大しづらく、重症化しづらい」という状況が世界中のデータから確認でき、それは富山県の子どもたちにおいても当初より同様の状況が続いております。一方、春の学校閉鎖中に一般小児科外来に受診してくる子どもたちの様子がおかしいことに気づきました。不定愁訴やチックと言われる心理的負荷の兆候を示す子どもたちが増えていたのです。それは多くの県内小児科医が感じていた事実でした。制限の多い生活は大人以上に子どもたちにとって苦痛です。公園で遊んでいると注意され、電話で学校などに抗議する大人たちもいました。学校再開後もマスクがずれていると注意され、行事開催に対しては前向きになれない大人たちが次々と中止を決定していきます。こうして子ども達は様々な形で傷ついていたのです。本当にこれで良いのでしょうか。小児科医として、この先の子どもたちへの甚大な影響が心配でなりません。子どもたちの多くは大人から感染し、子どもから大人



小児科
講師
種市 尋宙

への感染拡大は世界的にも少ないという医学的データが複数出ています。インフルエンザと異なり子どもたちはCOVID-19拡大の主役ではないのです。自由に生活をさせ、温かい目で見守ってあげてほしいと願っています。

このウイルスは人間に様々な場面で対立構造を生み出します。その罨にかかってしまっはいけません。そして、そのためには、われわれ医療者が医学的事実を探求し、正しい知識の普及に努める役割があり、その責任を強く感じています。この先については、子どもとCOVID-19について、ご興味のある方は下記URLまたはQRコードをご参考にしていただければ幸いです。この先も医療者としての責任を果たしていきたいと思えます。



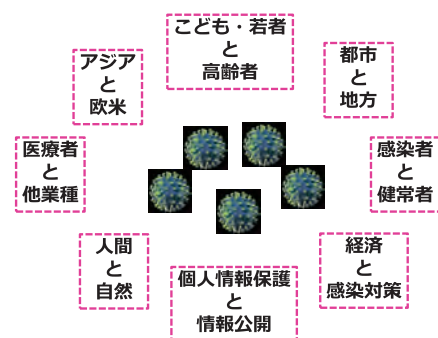
<http://toyama-nishi.jp/news/200807seminar-2/>



引用：中日新聞

無言の給食… 本当にこのままでいいのか？

人間はコロナに試されている？



立場の違いによる対立構造を生み出すウイルス

新任教授の抱負

幅広い先端治療を富山県に



産婦人科
診療科長・教授 中島 彰俊

自己紹介からさせていただきます。1999年に旧富山医科薬科大学を卒業後、2020年2月より富山大学産科婦人科教授になりました中島彰俊です。これまで、婦人科腫瘍指導医として、富山県内の婦人科癌患者さんの診療を行ってきました。当科の特徴は、進行卵巣癌に対する良好な治療成績や、積極的介入による早産予防、早発閉経患者さんに再度妊娠のチャンス繋げる治療など多岐にわたっています。本年度からは、「小児 AYA 世代妊孕性センター」のセンター長を拝命し、若年女性癌患者さんの妊娠支援にも取り組んでいきます。また、当科では2名の臨床遺伝専門医が在籍しており、胎児だけでなく癌診療における遺伝子診断の実施・支援をしている他、その後に続く予防的卵巣卵管切除術（卵巣がんになりやすい方の卵巣癌を減らす手術）など幅広い治療を行っております。産婦人科に関する不安や治療中のお悩みも含め、心配なことがありましたら、いつでも当科にご相談ください。

すべては患者さんの “当たり前”を取り戻すため



薬剤部
薬剤部長・教授 加藤 敦

令和2年4月1日より附属病院薬剤部の薬剤部長を拝命致しました加藤 敦と申します。どうぞよろしくお願いたします。コロナ禍を経験し、健康で当たり前日々を過ごせる大切さに改めて気づきました。私たち薬剤部では、一人でも多くの患者さんにご自分のお薬を正しく理解して頂き、きちんと服用して頂けるよう、全12病棟で薬剤師が常駐する体制を整え、服薬指導を行っています。近年では、従来よりも優れた治療効果が期待できる薬剤が数多く使用されるようになってきましたが、その一方で、服用方法が複雑であったり、副作用もこれまで以上に注意が必要になってきています。私たちは薬剤師としての専門性を生かして、お薬の効果を最大限とし、副作用を最小限に抑えるために様々な活動を行っています。お薬に関して不安や疑問がございましたら、ぜひお気軽に薬剤師に御相談下さい。

現在、附属病院薬剤部では、地域の医療機関や保険薬局と連携し、入院前から退院後まで切れ目のない最適な薬物療法が受けられる体制づくりを進めています。その先駆けとして本年7月から、外来化学療法センターにおいて連携充実加算の算定を開始させて頂きました。医師の指示に基づき薬剤師が、治療内容や検査値等を保険薬局へ情報提供し、患者さんの状態や注意すべき副作用等の情報を共有するとともに、保険薬局から本院へ副作用の発現状況、内服管理状況等の情報をフィードバックしてもらい、次回来院時の治療に役立てています。「すべては患者さんの“当たり前”を取り戻すため」病院薬剤師はアンサンブル・メディカルスタッフとしてこれからも皆さんを支えてまいります。



味覚（味の感じ方）について

栄養管理室 室長 甲村 亮二

私たちが食事を味わうためには味覚と視覚、聴覚、嗅覚、触覚の五感をすべて使います。そのうちの味覚については、日頃私たちが感じている味には5つの味があると言われています。

- ・甘味 砂糖を代表にした味 …………… 活動の源の味
- ・酸味 酢や梅干しなどのすっぱさ …… 発酵の味
- ・塩味 塩などの味 …………… 生理的欲求の味
- ・苦味 焦げなどの味 …………… 毒物の味
- ・旨味 うま味調味料の味 …………… アミノ酸の味（だしの味）



味には単独だけでなく、作用しあつての効果が 있습니다

相乗効果：同じ味を混合した時に、相互に味を強め合う現象
旨味と旨味⇒昆布とカツオの一番だし
甘味と甘味⇒砂糖に蜂蜜



対比効果：異なる味を混合した時に、一方または両方の味が強められる現象
甘味と塩味⇒スイカに塩やぜんざいに塩（甘味が引き立つ）
旨味と塩味⇒だしに塩（だしが引き立つ）



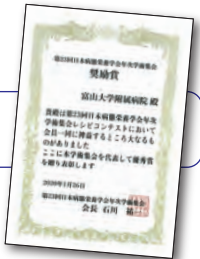
抑制効果：味を抑えます
苦味と甘味（コーヒーと砂糖）

打ち消し効果：双方の味を打ち消します
酸味と甘味（グレープ・フルーツと砂糖）

味のアクセントがない時や減塩などを行うときの工夫では、このような味の働きを使ってみてはいかかでしょうか？



Topics 本院管理栄養士が参加した第23回日本病態栄養学会年次学術集会レシピコンテストにて、「奨励賞」を受賞しました！

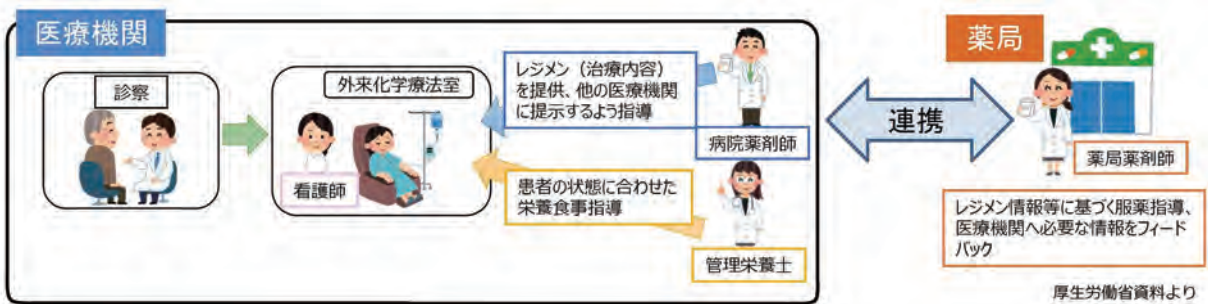


外来がん化学療法の質向上のための総合的な取り組み！

薬剤部 副部长 小野 敦央

近年のがん治療は外来が中心になりつつあります。また抗がん剤による化学療法では副作用の発生が比較的多くみられます。これら副作用の早期発見と対応は治療の継続にとって重要なポイントです。医師の指示のもと、当院の外来化学療法センターの薬剤師とかかりつけ薬局（調剤薬局）の薬剤師が連携し、患者さんの治療計画、進捗状況及び検査データ等を情報共有し、適切な服薬指導等を行います。調剤薬局で得られ

た副作用等の患者さんの情報は本院にフィードバックされ、次の診療に活用されます。また管理栄養士が患者さんの状態に合わせ、細かく栄養指導を行うことで、患者さんの体力維持及び治療継続に貢献します。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士に加え、かかりつけ薬局の薬剤師も関わりながら外来がん化学療法の質を高める総合的な取組を行っています。



厚生労働省資料より

当院の認定看護師をご紹介します

認知症看護認定看護師

認知症は、誰もがかかりうる病気であり、特別な病気ではありません。

私たち認知症看護認定看護師は、認知症に関する熟練した看護技術と知識を駆使して、認知症の予防や、認知症を悪化させないこと、また認知症になっても、住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることができるよう、ご本人やご家族の方々をサポートしたり権利を守るお手伝いをさせていただいています。

また、認知症の方やご家族に優しい看護を提供できる病院を目指し、日々活動しています。認知症ケアに関する悩みや疑問など、お気軽にご相談ください。

片口 歩 (南7階病棟)

認知症の方の尊厳を大切にします。



四日 順子 (北5階病棟 副看護師長)

認知症の人にも優しい病院を目指します。



立山町唯一の病院として救急から慢性期までの医療を担っています。グループ内には、介護老人保健施設、2つのケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅、デイサービス、訪問リハビリ等の事業所があり、住み慣れた街で暮らし続けるためのシームレスなサービスを提供しています。



医療法人財団恵仁会 藤木病院

立山町唯一の病院として救急から慢性期までの医療を担っています。グループ内には、介護老人保健施設、2つのケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅、デイサービス、訪問リハビリ等の事業所があり、住み慣れた街で暮らし続けるためのシームレスなサービスを提供しています。

当院は、昭和22年立山町に開院して以来地域に密着した医療を提供しております。地域包括システムのもとでは、法人の病床や入居施設は個々の法人の私的な所有物ではなく、地域を支える大事なインフラです。その運営は地域から委託されたものという考えで、コンプライアンス重視を最優先として運営しております。

富山大学付属病院のような先進的医療を提供している医療機関と地域との密接な連携により新たな地域医療の構築を目指しています。

富山大学付属病院で先進的な医療を受けておられる方、慢性疾患を有する高齢者、がんや難病で加療中の方は、お住まいの近くにいつでも迅速にCTやMRIなどの検査が可能で、かつ入院をすぐ引き受けられる医療機関を確保しておくことが大切です。当院は、公的医療機関でのフォロー中の方の急変時・増悪時の対応に力を入れております。

当院の診療の基本は、病気の発症起点を個別に考え、個々の患者環境を考慮した個別化治療を心がけていることです。治療法の特徴としては、脳血管障害や中枢神経障害に対する高気圧酸素療法とがんに対

する温熱治療が施行可能なことです。がん治療においては、従来からの化学療法を個々の患者様の状態に合わせて低用量化し高齢者やリスクの高い方にも対応しております。特に、腹水、腹膜播種といった難治症例に対しては腹腔内化学療法、温熱療法と高気圧酸素療法を組み合わせた集学的治療を施行しております。当院は高気圧酸素療法、温熱治療、低用量化学療法を集学的に施行する【がん低侵襲治療】を行うことができる数少ない施設となっております。

また慢性期の医療に関しては、急変時対応に加え在宅復帰のためのリハビリテーションにも力を注いでいます。ご自宅での生活のために、通所リハビリ、デイサービス、訪問診療、訪問リハビリテーション等シームレスなサービスも行っています。

多様な価値観を持つ方が多く存在する現代社会では、治療のゴールも多様化しています。

恵仁会では、何より患者様一人ひとりに合わせた治療を行うことをモットーとして診療にあたっています。

また、恵仁会は、地域の皆様の健康と福祉のためばかりでなく、そこに働く人の「やりがい」「誇り」にも配慮して運営しております。「働きやすさ」に配慮して病院内に企業内保育施設も併設しております。

医療と介護で地域社会に貢献することを法人の理念とする藤木病院を今後ともよろしく願いいたします。



〔病院名〕 医療法人財団恵仁会藤木病院
〔病院長〕 藤木 龍輔
〔所在地〕 富山県中新川郡立山町大石原225
TEL.076-463-1301 FAX.076-463-2801
〔休診日〕 日曜日・祝日・年末年始

〔診療科〕 総合診療科・内科（循環器・消化器・糖尿病・和漢）
整形外科・脳神経外科・眼科・耳鼻咽喉科
泌尿器科・リハビリテーション科
〔病 床〕 一般病床：16床 地域包括ケア病床：44床

新型コロナに負けない病院に



病院長 林 篤志

富山大学附属病院に通院されている皆さまこんにちは。

今年は新型コロナウイルス感染症のため、まったく社会も病院も事情が変わってしまいました。

日頃より皆さまには、院内でのマスク着用など感染対策にご協力いただき心より感謝申し上げます。当院では、大学病院でなければできない高度先進医療をしっかりと担いなが

ら、感染症指定病院として重症患者さんの治療も行っています。病院として皆さまの安全を守るため、感染予防対策をしっかりと行っています。面会制限が続いておりご迷惑をおかけしていますが、これからインフルエンザの季節でもあり、まだまだ油断できる状況ではありません。引き続き、皆さまと一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

安心・安全な医療を目指して



副病院長 山崎 光章

次第に寒さが身にしみる季節になってきましたが、皆様には、コロナだけではなく季節性のインフルエンザ流行にも備えて体調管理に十分注意していただくよう心から願っています。さて、当院では、患者様が安心して受診できるように、医療安全管理室を設置しています。ここでは、医療現場で医療事故が生じないように、専門的な立場から常に病院の診療に目を光らせています。また、安心・安

全な医療が行われるように、患者様にも協力していただいています。例えばですが、診察時に皆様にフルネームでの名前と生年月日を言ってもらい、検査結果などを患者様と一緒に確認するなどがあります。当院では、患者様とともに、安心・安全な医療の提供を最大限目指しています。

編集後記

紅葉で赤く燃える立山連峰の三段染めも終わりましたが、平野部ではまだ紅葉を楽しめる場所も数多くあります。

週末には色々な「行楽」「飲食」を満喫されると思いますが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、マスクの着用と手洗いを徹底し、密にならないよう注意すると

ともに、「自分が感染しているかも」という思いを持って行動しましょう。

来年のオリンピック開催までには新型コロナウイルス感染が終息し、熱い夏を満喫出来ることを願っています。

広報委員 細谷 晃

ここがすごい！

富山大学附属病院の 先端医療

皆さま こんにちは

3年前に「ここがすごい！ 富山大学附属病院の最新医療」という本を患者さんや一般の方に向けて出版しました。医療の進歩のスピードは速いため、3年でもはや内容が古くなっています。そこで、当院の医師、医療従事者が新しく原稿を書き、今年6月1日付で「ここがすごい！ 富山大学附属病院の先端医療」として、すべての内容を刷新して出版いたしました。

今、医療に関する情報は、だれでもインターネットなどで簡単に調べることができますが、あまりにも多くの情報があり、また個人の見解によるものも多く、何を信頼すればよいかわからなくなっています。そのような中、我々、富山大学附属病院の医師や医療従事者が、患者さんや一般の方に向けて、医療に関する正確な情報をお伝えする一つ的手段として、この本を出版いたしました。もちろん実際に当院で行っている先端医療の内容とそれを実施している医師が執筆しています。

情報が氾濫する中、コンパクトに正確な先端医療の情報が得られる本として大変価値のあるものと考えております。ぜひ皆さまに手にとってご覧いただきたいと思っております。この本は院内売店のほか県内の書店でも取り扱っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

附属病院長 林 篤志

好評発売中！

「ここがすごい！富山大学附属病院の先端医療」概要

1. 判型及びページ数：A4判、184ページ
2. 編著：富山大学附属病院
3. 発行：バリューメディカル
4. 発行日：2020年6月1日
5. 発売：南々社
6. 価格：1,800円（税別）
7. 販売場所：富山大学附属病院内売店
富山県内の主要書店
インターネット

